

News Release

サンゲツ 国際的デザイン賞「iF デザインアワード 2022」を受賞

日本の伝統美をテーマにした隈研吾氏とのコラボレーション商品「カゲトヒカリ」を世界が評価

株式会社サンゲツ（本社：愛知県名古屋市、代表取締役 社長執行役員：安田正介）は、建築家 隈研吾氏とのコラボレーションによる「KAGETOHIKARI（カゲトヒカリ）」コレクションにて、国際的に権威のあるデザイン賞「iF デザインアワード 2022」を受賞しました。当社の受賞は、去年の「SHITSURAHU（室礼）」に続き、2プロダクト目となります。



■ 受賞商品

「KAGETOHIKARI（カゲトヒカリ）」コレクション【壁紙・カーペットタイル】

「KAGETOHIKARI」は、建築家の隈研吾氏とのコラボレーションにより、日本の伝統美の象徴である「カゲ」と「ヒカリ」を、壁紙や床材で表現した内装材コレクションです。本プロジェクトでは、「カゲ」と「ヒカリ」、その中に生まれる「移ろい」「揺らぎ」「重なり」という現象をテーマにデザインを発想。日本の伝統的な素材を用いて、卓越した技術者・職人たちの匠の技を駆使することで、商品の見た目だけでなく、手触りや奥行き、空気感を表現する、新しい空間体験の創造に挑戦し、誕生させました。



特設サイト：「KAGETOHIKARI」ブランドサイト

<https://www.sangetsu.co.jp/newproduct/kagetohikari/>

「KAGETOHIKARI」プロジェクトの始まりから、隈研吾氏のアイデアの源泉と思想プロセス、技術者・職人の匠の技を結集した製作工程まで、商品ができるまでの道のりを紹介しています。

受賞詳細（英語） <https://ifdesign.com/en/winner-ranking/project/kagetohikari/348203>

iF デザインアワード

ドイツのiF インターナショナル・フォーラム・デザイン (iF International Forum Design GmbH) が主催する「iF デザインアワード」は、1954年からの長い歴史を誇り、世界で最も認知されているデザインアワードの一つです。プロダクトはじめ、パッケージ、コミュニケーション、インテリア・内装、プロフェッショナル・コンセプト、サービスデザイン、建築、ユーザーエクスペリエンス、ユーザーインターフェースの9つの分野で構成され、「KAGETOHIKARI」は、プロダクト分野で受賞しました。

iF 公式 WEB サイト（英語）：<https://ifworlddesignguide.com/>

受賞商品の概要

「KAGETOHİKARI」は、建築家 隈研吾氏とのコラボレーションにより誕生した、日本人の美意識と建築空間をつなぐ壁紙と床材のコレクションです。技術者・職人たちの力を結集し、「カゲ」と「ヒカリ」をテーマに素材感による温もり、手触り感、五感に響くデザインを、オノマトペを頼りに表現したラインアップです。



しやらしやら

SHARA SHARA

どこまでも深みが続くように

幾重にもかさなった線が風になびくと鳴る「しやらしやら」という音。線に生じる「カゲ」が織り成す奥行き感を表現しました。

壁紙：KAG-103-C

和紙を漉く過程での襍繊維をそのまま利用し、線の重なりを形にしました。

カーペットタイル：KAG-202-T

グラデーション糸を用いたベースに単色の水平・垂直・斜めグリッドをランダムに配置し、線の重なりによって生まれる「カゲ」の奥行き感を追求しました。



もわもわ

MOWA MOWA

揺らぎの連続が移ろいゆく

「ヒカリ」の中に現れる「もわもわ」とした有機的な「カゲ」の形。ゆっくりと流れる時間の移ろいと空気感を表現しました。

壁紙：KAG-301-C

織物の持つ撚れ（よれ）や不安定な素材の特徴をあえて意匠に利用。ベースにアルミ紙を置き、奥行きのある光沢感を創り出すことで、光の角度によって異なる揺らぎが現れます。

カーペットタイル：KAG-405-T

「カゲ」が揺らぐ様を大小の有機的な曲線で構成しました。染色ピッチを長くとったグラデーション糸を用いることで色の揺らぎと線の揺らぎを組み合わせ、移ろいによって「カゲ」が動いている様を表現しています。



つぶつぶ

TUBU TUBU

屹立するつぶたちの表現力

「カゲ」の中のでつぶつぶ。その不均一さや凹凸感のバランスを追求することで、「カゲ」が本来生みだしている力強さや温かみを表現しました。

壁紙：KAG-503-C

和空間にあう商品を目指し、職人の手塗りによる不規則な凹凸と塗りムラを活かし、陶器のように仕上げました。

カーペットタイル：KAG-602-T

小ささまざまに粒の大きさをデザインし、それらの粒の配置による粗密さや、さらに細かな凹凸を加えることで「カゲ」の持つ豊かな表情を追求しました。ニットデニット糸を用いたカットパイルとグラデーション糸により、粒一つ一つの不均一さを強調することに成功しました。

関連 WEB ページ

- ・モノづくりストーリー：STORY#05 日本のモノづくりを世界に示す「カゲトヒカリ」
https://www.sangetsu.co.jp/monostory/archive/0005_01.html
- ・「KAGETOHİKARI(カゲトヒカリ)」の納品事例：石垣市庁舎
<https://www.sangetsu.co.jp/case/detail/0182.html>

[本件に関する照会先]

株式会社サンゲツ 総務部 広報 IR 課

TEL：052(564)3314 mail：info@sangetsu.co.jp

株式会社サンゲツ